

県内小・中学校に今後の取組の参考となるものを届けることをねらいとして「アドバイザーズ・ビューポイント」を作成しています。今号では、第1回学校訪問で見られた学校の組織的な取組について、学校経営アドバイザーの視点で紹介いたします。

Adviser's viewpoint



©岡山県「ももっち」

多くの小学校で「授業5（ファイブ）」を踏まえた授業改善が進んでいますが、**授業改善を更に一步先へ進める手立てとして「単元を見通した授業づくり」を【重点的取組】に位置付けて取り組んでいる学校**があります。具体例として、「単元を見通した『ふりかえりシート』を活用した授業づくり」を校内研究テーマとすることで、教職員全体の共通理解のもと、授業改善を実践することができています。

近年、中学校でも単元を見通した「OPPA（One Page Portfolio Assessment）」という取組を行っている学校があります。新学習指導要領が求める児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりを組織的に進める上で有効な取組です。

① 学校経営アクションプラン（以下、AP）の概要

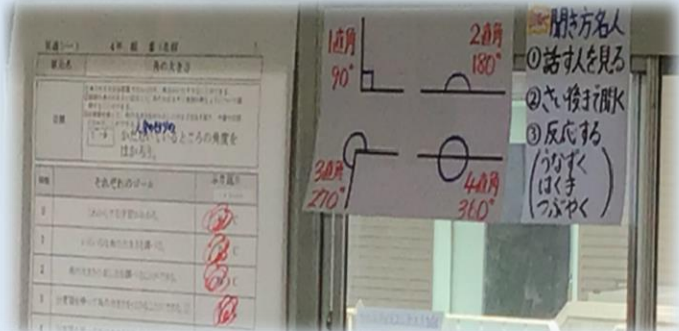
- ・本校の【現状】は、授業については、「見通し」という言葉が校内の共通言語となり、ゴールを意識した単元設定が定着してきている。
- ・今年度のAPの【達成目標】は、「『単元の見通し』『本時のめあて』をもち**ゴールの姿をイメージしながら主体的に学習に臨む児童を増やす。**」
- ・目指す児童像に近づけるため、【重点的取組】に、「**単元を見通した『ふりかえりシート』**（下図参照）の活用」を設定する。
- ・【取組指標】は、「毎単元ふりかえりシートを活用している。」「ふりかえりシートの効果を感じている。」と回答する教員が12月時点で90%を目指す。
- ・【検証方法】は、学校評価アンケートと児童質問紙（年2回実施）



② 重点的取組の実践

ふりかえりシート 4年 算 数 (名前)		
単元名	角の大きさ	
目 標	①角の大きさを分度器で測ったり、角をかいたりすることができる。 ②図形の角の大きさに注目して、角の大きさや三角形の持ちようについて説明することができる。 ③分度器を使って、角の大きさを測ることをよきふり返り、今後の生活に生かすことができる。	
	ゴール	身の回りのかたむいてるところの角度を調べよう。
時数	それぞれのゴール	ふり返り いいね がんばるぞ
0	これからする学習がわかる。	B C
1	いろいろな角の大きさを調べる。	B C
7	分度器を使って角度をかいたり、三角形をかいたりすることができる。②	B C
ゴール	いかしてみよう。道具を作って、身の回りのかたむいてるところの角度をはかることができる	B C
9	練習問題に取り組む。	B C
単元のふりかえり		

児童は、毎時間の振り返りをノートに記述し、「ふりかえりシート」では自己評価（B・C）をしている。単元終了後には、単元を通した振り返りを記述している。**担任は、毎時間後の児童の理解度を把握して次時の参考とし、単元終了後には指導の振り返りに活用している。**



【写真 教室掲示の様子】

授業中、「**今、自分が単元の中のどの場面を学習しているのか**」を確認できるようにするために、拡大版「ふりかえりシート」を教室に掲示している。併せて、授業で使った資料等を掲示し、**単元のゴールを目指した学びの足跡**を残している。

同様の取組を行っている他校の校長の思い

「主体的に学ぶ児童の育成」を目指し、単元の導入時に単元末と各時のゴールを示したシートを児童に活用させるとともに、教室に拡大掲示するようにしている。
こうすることにより、児童が自らの力で見通しを持ち、主体的に学習に取り組むようになって考えている。

児童には、本時の学びについて簡単に自己評価させるとともに、単元の終わりに振り返りをさせることにより、自らの思考過程を振り返り、働かせてきた「見方・考え方」の自覚につなげたい。



【図 ふりかえりシート(4年生算数「角の大きさ」)】